



タイトル **自治体初参加！「留職プログラム」を活用して、つくば市職員を新興国に派遣します。**

項目(あてはまるものすべてにチェック)

- イベント・会議等の事前周知依頼 イベント・会議等の取材依頼
 イベント会議以外の事業の周知依頼 参加者募集の告知依頼
 その他 ()

全1枚(本紙含む)

<概要>

つくば市は、「持続可能都市つくば」実現に向けてリーダーシップを発揮できる職員の育成を目的に、新興国の社会課題解決に挑む海外の団体に2名の職員を派遣します。今回の派遣は、特定非営利活動法人クロスフィールズ(東京都品川区、代表理事:小沼大地)が実施している「留職プログラム」を活用して行う職員研修で、自治体としては、初の取り組みです。

●派遣期間及び派遣先

平成30年10月から12月まで 3か月間 インド及びインドネシア

●派遣職員 30代の男性職員 1名、30代の女性職員 1名

※現地活動中の安全確保のため、派遣職員の氏名や派遣先団体名などの詳細な情報は非公開としておりますので、御了承ください。

●内容

参加予定の2名の職員は、インドとインドネシアにおいて3か月、障害者の雇用支援をする社会的企業でのマーケティング支援や、農村部のコミュニティ開発支援をするNGOでのファンドレイジングといった業務に取り組みます。帰国後には、改めて現地での成果について報告会を実施する予定です。

●市長及び派遣職員コメント

市長:「厳しい環境下で、共通の前提もない中で業務を行うことは、職員にとって最良の学びの機会」

派遣職員:「課題を自ら発見し、周りを巻き込んで解決する能力を身につけ、その経験を帰国後の業務等にいかしたい」

●特定非営利活動法人クロスフィールズについて

特定非営利活動法人クロスフィールズは、これまで「留職プログラム」という民間企業向けの同種のプログラムを5年以上にわたって運営していることから、派遣プログラムの実施に必要なノウハウを数多く持ち、海外の事情にも精通しています。この研修の目的達成のために、効果的かつ安全なプログラムの提供を受けられることから当該法人の「留職プログラム」を導入することとしました。

●関連Webページや検索キーワード 特定非営利活動法人クロスフィールズ ホームページ <http://crossfields.jp/>